

琴似二十四軒

安心して暮らせるまちに

◎ 防火防災活動

昨年、西区内では放火などによる火災が相次いで起こりました。この状況に危機感を抱いた琴似・二十四軒・二十団東の三連合町内会は、合同で「放火防止対策推進委員会」を平成十八年十二月に立ち上げました。

今年二月、地域内の町内会を対象に「放火防止診断」を行いました。これは市消防局が作った点検票を使い、ごみステーションはきれいか、人目の届かない場所がないかななど三十項目の設問に答え、火災が起りやすい危険度を町内会ごとに診断するものです。三月末に診断結果を取りまとめ、各町内会に防火上の注意点を伝えました。この結果を、将来的には防火マップ作製など、防火意識の啓発に使うことを検討しています。

An illustration showing a residential street with houses. In the foreground, a man in a dark coat and hat holds a megaphone and speaks into it. In the background, another man in a light-colored jacket and a woman in a blue dress stand near a house, listening. A speech bubble from the man with the megaphone contains the text 'みんなの力で防火・防災' (Everyone's effort for fire prevention and disaster prevention). Another speech bubble from the woman says 'おつかれさまでした' (Thank you for your hard work).

きっかけは、七年前の冬に起きた家屋の火災。当時は路肩に雪がたまつて道幅が狭く、駆け付けた消防車が火災現場に近づけず消防活動が難航しました。この苦い経験から、緊急車両の通路確保のため、住民に除雪費用を負担してもうことにしました。初めは費用負担の説得に苦労しましたが、実際に除雪を行ったところ「道が広くなつた」と評判が良く、今では住民が積極的に除雪に協力してくれるようになりました。

そのほか、ごみステーションの巡回清掃や「火の用心」の見回りなど、放火防止の努力を惜しみません。

「地域にかかわるみんなの協力で、道路もまちもきれいになります」と、山内さんは自信を持つて話します。



▲山内敦さん

内敦会長です。内は、二十四軒中央町内会の山やまは、二十四軒中央町内会で、積極的に自主防災訓練を行っています。また、防火の観点から、パートナーシップによる除雪による生活道路の除排雪を始めたといいます。

八軒中央

みんなの笑顔が活動の源
く地域交流活動

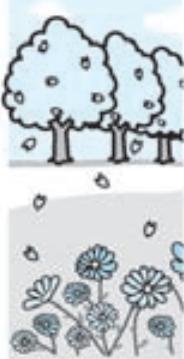
八軒十条東町内会の梅村智（つゆむらさち）会長は、町内会活動に携わって三十九年になります。「町内会活動はボランティア。活動が生活の負担になつてはだめ」。自分の都合に合わせて無理をしないことや家族の協力があるから、長く活動を続けられるといいます。



▲梅村智さん

梅村さんの町内会では、新川沿いの桜並木の清掃や道路沿いにコスモスを植えるなど美化活動と、盆踊り大会などの住民交流活動が盛んです。中でも盆踊り大会は、昭和四十八年から毎年必ず開催しています。地域の人々が一堂に集まる大事な交流の場であり、昨年は三百人以上の人があり、踊りやゲームに興じました。「大会運営はとても忙しい。でも、参加者の笑顔を見ると、それまでのしんどさも吹き飛びます」と、楽しそうに話します。

桜並木は、八軒側に桜が植えられて四年が過ぎ、やつと細い枝に少し花が付き始めてきました。また歩道のコスモスは、夏から秋に花を咲かせ、



は「そんな梅村さんの座右の銘は、「花開いて蝶おのずから来れいな花は咲いて、いるだけで蝶が自然に集まる」という意味。「まちもきれいにしていると、ここに住みたいと思う人が自然に集まるようになる」と信じています」と力強く語ります。

この言葉を胸に、今日も梅村さんをはじめ町内会役員の皆さんは、みんなの笑顔のために活動します。

花開いて蝶おのずから来る

道行く人の心を和ませていま
す。「桜やコスモスがきれい
に咲く美しいまちを、孫の世
代に残していきたい」と抱負
を語ります。